

2025 年度



# 人文科学課題研究 I

## 研究ノート

研究テーマ

メンバー

班長 (	)	(	)
(	)	(	)
(	)	(	)

( ) 班 担当の先生 ( )

H 番 氏名 \_\_\_\_\_



石川県立小松高等学校

普通科人文科学コース

# 1. 課題研究の意義

## ○なぜ今、「探究学習」が必要とされているのか

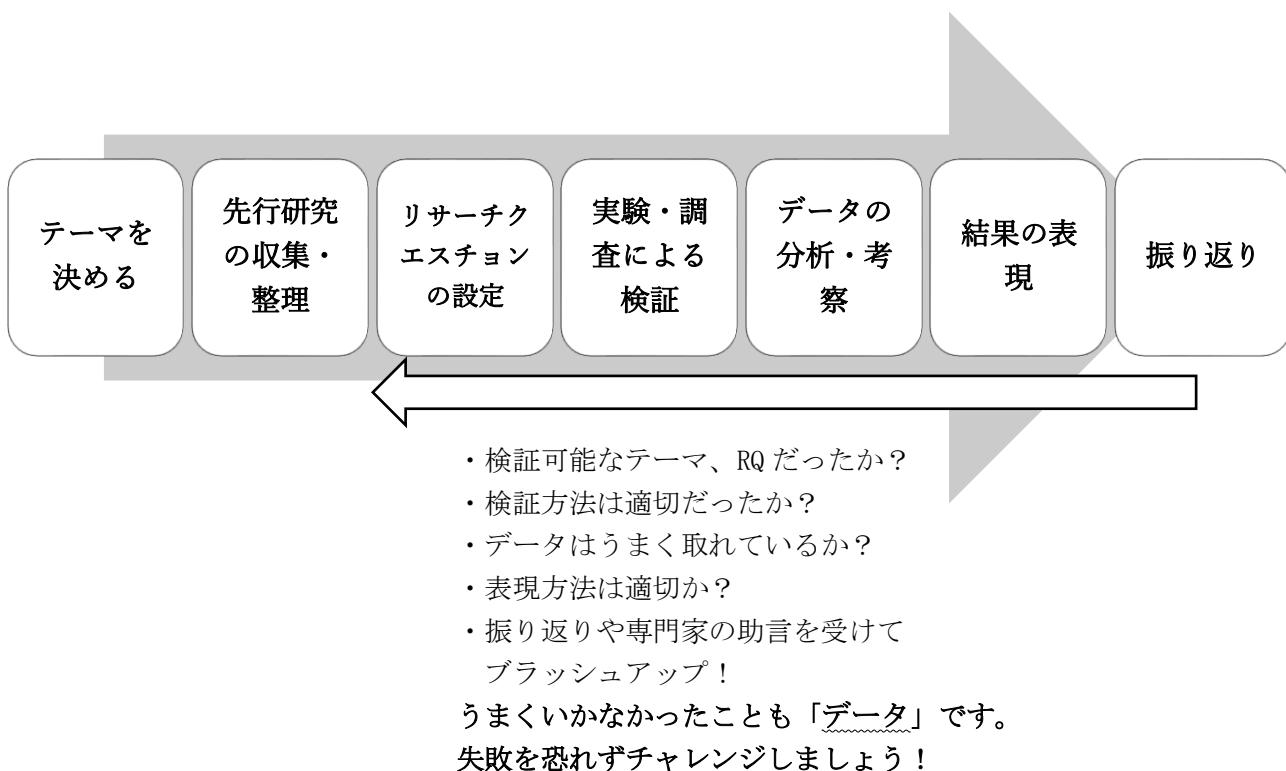
今、世の中がどんなふうに動いているか、知っていますか。グローバル化という言葉にあるように、国の枠組みを超えて人や物や情報が行き交い、社会の枠組みが大きく変化してきています。例えば、科学上の発見が直ちに技術革新に転化され、私たちの生活が豊かになったりする一方で、世界規模での感染症の流行により私たちの生活が大きく変わったりしています。またインターネットの普及はコミュニケーションの形態を変え、オンライン授業やリモートワークなどもかなり身近なものとなりました。このように時代の変化は加速度的で、とどまるところを知りません。

人生において「目標」を持つことの意義については、言うまでもありません。しかし、先の見えないこの時代において「目標」を持つことは難しいことです。では自分なりの「目標」を持つには、どうしたらよいか。まず自分がどういう興味や関心を持っているかを知るところから始まります。そしてその領域に関する情報を集め、「現実」をしっかり認識し、同時に自分の「夢」を考えるのです。そうすると「現実」と「夢」の落差が見えてきて、「問題」が発見できるのです。その「問題」解決が、自分の「目標」となります。

他の誰にも真似できない自分なりの目標を持つための訓練を「探究学習」が担ってくれます。せっかくやるんだから「楽しんだ者勝ち」。さあ「夢」に向かって出発しよう！

## ○探究学習のフロー

探究学習は以下の流れで進めていきます。実際には矢印通りに進むだけでなく、行ったり来たりすることもあります。むしろ、失敗や試行錯誤のプロセスが「探究」の価値といえます。



## 2. 研究を行う際の心構え

### ■知識を活用して現実の問題を解決しよう。

何かについて単に調べるだけでは、不十分です。調査した内容を整理し、その関係性を考え、自分たちの結論を導こうとする姿勢を持って下さい。

### ■主体的に探究活動に取り組もう。

テーマに対して興味を持って積極的に取り組んで下さい。

担当の先生とコミュニケーションを取り、研究を深めましょう。

### <テーマ設定の手法>

#### ① 興味の対象（研究分野）を決める

まずは、何について探究するのか、興味の対象を話し合おう。興味の対象はこれまでに皆さんがあなたが見聞き経験してきたものの中に存在し、皆さんの内側から現れるものです。決してインターネットで「研究テーマ」などと検索してはいけない。自分の興味をグループで出し合ってみてください。

##### 手法その1 授業

普段の授業で疑問に思ったことはないだろうか？教科書や授業ノートを見返してみよう。もちろん、まだ授業で扱っていない内容でも構いません。

##### 手法その2 ブレインストーミング

グループメンバーで興味があることを1人ずつ出し合ってみよう。キーワードや単語でもOKです。ただし、出てきたアイデアは決して否定してはいけない。グループで3～4周ほどアイデアを出し合えば、いくつか研究になりそうなものがないだろうか？（例 サッカー 木 温泉 氷）

#### ② 研究テーマを設定する

興味の対象（研究分野）が絞れたら、研究テーマを決めよう。2年での課題研究は、1年かけて行います。裏を返せば 1年間興味関心が持続する本当に自分が探究したいと思うテーマを設定するということです。そのためには必要なことは、テーマへの「興味・関心」、「当事者性」が大切です。限られた時間的、経済的資源のなかで、“私たちだからできたんだ”という探究活動にしたいですね。

そのためには、まず「既に分かっていることを知ること」です。インターネット（ここで初めて登場）等を活用して、いわゆる「先行研究」について調べてみよう。研究論文を読むのが大変な場合、生成AIを活用すると良いかもしれません。

また、例年大きなテーマを設定して途中で挫折する姿が散見されます（「日本における～」、「現代世界の～」など）。気持ちは分かりますが、ぜひ 1つの絞った事例を深く深く追究し、その結果をもとに大きな考察を行うという姿勢を大切にしましょう。

研究テーマが定まったら、仮説の設定、実験や調査へと進んでいきます。

### 3. 年間計画

学 期	月	日	内容(予定)	行事等	提出物など
学 期	4	16	開講式、分野希望調査、講座「研究倫理」	遠足(18 予備17)	ゼミ希望調査の回答
		23	講座「RQの設定と仮説の立て方」、探究活動		
		30	探究活動		ループリック(中間)提出
	5	7	探究活動		
		14	探究活動		研究テーマ提出
		21	オンライン講座 ①「研究構想シート」について	中間試験(20~23)	
		27	探究活動		
	6	6		県総体(5~)	
		11		修学旅行(11~)	
		18	探究活動		研究構想シート提出
		25	テーマ報告会		
	7	2		期末試験(30~4)	
		9	講座「夏休み中の活動について」	校内レガッタ(8) SSH成果発表会(11)	
		16	探究活動	終業式(17)	
学 期	8	各グループで独自で探究活動			
		3	探究活動		スライド提出
		10	中間報告会		振り返りシート(9月)、中間自己評価
		17	探究活動	前期新人大会(18~)	
		24~25	関東ヒューマンセミナー		(事後)関東ヒューマンセミナーしおりと事後アンケート
	9	2	探究活動		ループリック(最終)提出
		9		中間試験(7~10)	
		16	探究活動		
		23	探究活動	マラソン大会(24 予備23)	
		30	探究活動		研究要旨(プレ)、スライド提出
	10	2	プレ発表会		
		5	探究活動(振り返り)		
		12	オンライン講座 ②「ポスター作成」について		後期新人大会(13~16)
		19	探究活動		
		26		期末試験(26~2)	
学 期	11	3	探究活動		
		10			研究要旨(最終)提出
		16~19	海外交流研修	保護者懇談(19~23)	
		24		終業式(23)	
	12	14	ポスター発表会(2年全体)	校内模試(7,8)	ポスターデータ提出
		21	探究活動		振り返りシート(1月)、最終自己評価
		28	探究活動		
		29	石川県SSH・NSH生徒課題研究合同発表会		
		4	探究活動(振り返り)、講座「活動報告書作成について」		
学 期	13	11			
		18	活動報告書作成		活動報告書(締切2月20日)
		25		学年末試験(19~26)	
	14	4		卒業式(3)	
		11		学検	
		15	究める課題研究 in KOMATSU		
		18		文化部発表会(19)	

## <「研究の記録」の記入について>

研究に取り組むとき、「研究の記録」の作成は必須です。基本的には、1人が1冊振り返りシートを作成します。振り返りシートの内容は、1時間でどのような講義・調査活動等が行われたかが、第三者が理解できる情報や記載内容とすることが必要条件です。

### 振り返りシートの記入の仕方>

1. 研究の記録は、研究を行った日に記入する。
  - ・受けた講義の内容
  - ・わかったこと
  - ・気付いたこと
2. 新しい考え方や研究方法などを思いついたら、すぐに振り返りシートへ記入する。
3. 他人からのアイデアや議論の内容を記入する。
4. 記入する内容は「日付」と「タイトル」で始める。
  - ① 日付とタイトル
  - ② 目的
  - ③ 手順
  - ④ 結果（詳細に）やメモ
  - ⑤ 考察
    - ・結果から言えること
    - ・目的は達成されたかどうか
    - ・仮説の検証（実証か否定か）
    - ・次の課題 など
5. 研究を行う上で必要な資料、データなどもノートに貼っておくこと。

## 4. 各発表会の概要

	テーマ報告会	中間報告会	プレ発表会	最終発表会
目的	「実現可能な研究テーマが設定されているか」を確認し、今後の研究の方針を決める。	現時点でのテーマ・仮説・研究手法・成果等を発表し、質問・助言を通じて、研究内容の充実化を図る。	口頭発表を行い、質疑応答や意見交換を通じて、研究の最終段階に向けて今後の改善点を把握し、研究のまとめに向かう。	ループリックに従い「十分な資料・データが集められ分析されているか」及び「研究から明らかになったことについて論理的に説明できているか」を確認し評価を行う。
日付	6月25日（水）	9月10日（水）	11月2日（土）	1月14日（水）
形式	ラウンドテーブル	ポスターセッション	口頭発表	ポスターセッション
発表時間	発表3分 質疑応答6分	発表4分 質疑応答5分	発表6分 質疑応答3分	発表3分程度
ポスター	研究構想・計画書 1枚	Gスライド A3 6枚～	研究要旨 Gスライド	研究要旨 ポスター（A0）
会場	情報処理室	情報処理室	情報処理室	第1・2体育館
内容	①基本知識 ②テーマ・仮説 ③データの収集分析	②テーマ・仮説 ③データの収集分 ④結論・論理性 ⑤話し方・質問	②テーマ・仮説 ③データの収集分 ④結論・論理性 ⑥話し方・質問	②テーマ・仮説 ③データの収集分 ④結論・論理性 ⑤ポスター ⑥話し方・質問

この他、校外での発表があります！

○昨年度参加した校外の探究成果発表会

- ・ミライシコウ金沢（金沢大学主催）・究める課題研究 in KOMATSU・福井県合同課題研究発表会
- ・全国探究コンテスト2024・日本地理学会高校生ポスターセッション

学会やコンテストに参加した先輩の多くは、その分野の専門家の助言を受けたり、同世代の高校生と研究交流をしたりすることを通して、学ぶことへのモチベーションが向上したと振り返っています。

臆せず、チャレンジしましょう！

## <グーグルスライドの作り方>

### (1) スライド制作にあたって

課題探究のグーグルクラスマウムを作成します。スライドは準備します。

デフォルト（16：9）、フォントは Arial を使用、背景はシンプルなデザインにすること。

### (2) 内容の構成の例

1. タイトル(班員の名前クラスも入力)    2. 動機    3. 仮説    4. 方法    5. 結果    6. 考察  
7. 結論    8. 参考文献

の順に 8 枚のスライドを作成

(あくまで例です。研究内容を分かりやすく伝えられるよう、見せ方や構成を工夫しましょう。)

## <ポスターの作り方>

### (1) ポスター制作にあたって

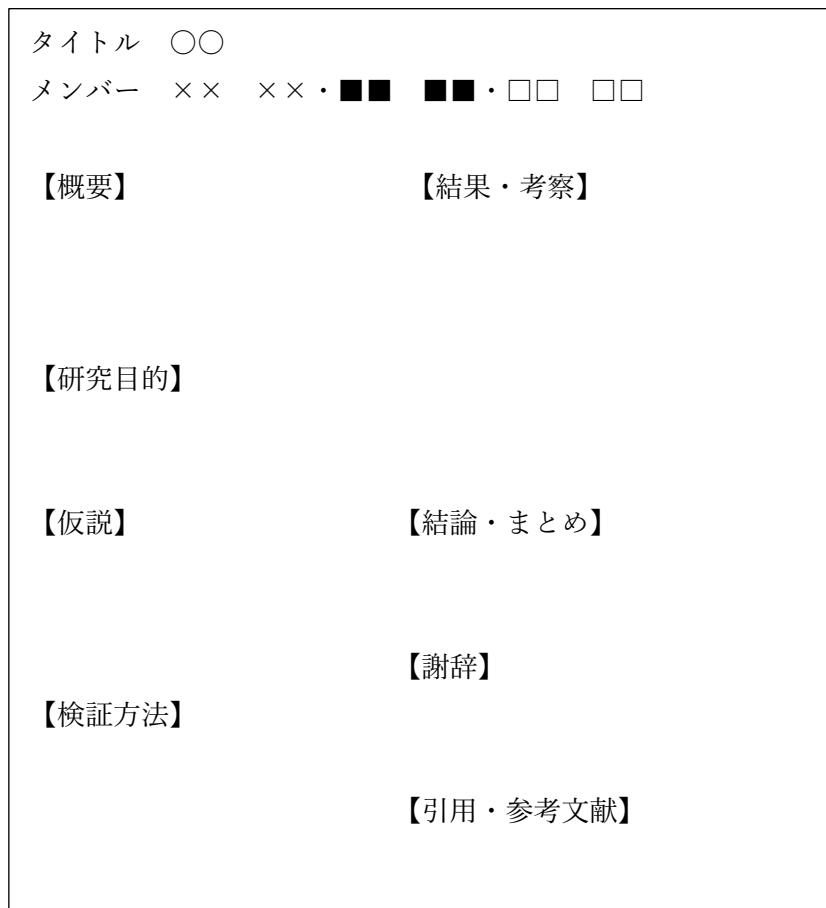
最終的なポスターは、A0 サイズ用紙に印刷します。

### (2) 「見やすさ」が大切

ポスターを作るにあたって念頭に置くべきことは、「一目でわかりやすいこと」です。

具体的な文字の大きさ、余白設定等の詳細は、オンライン講座「ポスター作成について」で説明します！

ポスターの構成と流れ（例）



## 5. 発表会評価ルーブリック

ルーブリックとは、何らかのパフォーマンスを評価する際の基準のことです。事前に基準を具体的に示すことで、公平に評価できるだけでなく、どのように頑張ればよいのかも分かるので自身の成長に大いに役立ちます。最後の項目は、自分たちで設定します。自身の探究を評価する基準を生徒自身が参加して設定する（=生徒が自分でルーブリックを作成する）ことで、自分たちの自己評価能力を伸ばす機会になります。

項目/到達度	4	3	2	1
① 基本知識・問題の背景	先行研究及び周辺領域を調べることにより、 <u>現在ある問題点や疑問点を明らかにし、誰もが納得できる動機づけがされている。</u>	テーマに対する知識を踏まえ、 <u>現在ある問題点や疑問点を示している。</u>	動機は書いてあるが、根拠や背景が不明確である。	テーマに対する基本知識が不足しており、問題の本質に迫っていない。
② テーマ設定・仮説や調査項目	検証可能なテーマが設定されており、それについての RQ や仮説や調査項目が明確に示されている。	検証可能な研究テーマが設定され、 <u>RQ や仮説や調査項目が示されている。</u>	テーマは明確であるが、研究として実現可能であるとはいえない。 <u>調べ学習に終わる可能性がある。</u>	テーマが明確でない。
③ 資料・データの収集・分析	研究仮説を立証するための十分な資料またはデータが集められ、 <u>的確に分析</u> されている。	研究仮説を立証するための十分な資料またはデータ・資料が集められ、 <u>分析</u> されている。	資料やデータがあるが、研究仮説を立証するためには不十分である。	資料やデータ収集が適切ではなく、結論や仮説の立証につながるとは思えない。
④ 結論・論理性	研究から明らかになったことについて整理し、 <u>さまざまな知識を用いて論理的に説明</u> している。	研究から明らかになったことについて整理し、 <u>論理的に、説明</u> できている。	やや <u>論理性に欠ける</u> が、結論に向けて方向性が定まりつつある。	論理性に欠け、結論に向けて <u>方向性が定っていない</u> 。
⑤ ポスターの見やすさ	研究方法、分析の内容、結論が明確に示され、論理展開もわかりやすく示されている。	研究方法、分析の内容、結論が示され、論理展開も示されている。	研究方法、分析、結論の記述があるが、わかりにくく、論理展開も不明瞭である。	研究方法、分析、結論の記述が欠け、わかりにくい。
⑥ 話し方・質問への対応	・明瞭かつ的確な話し方であり、声量は大きく、楽に聞き取れる。 ・質問に対する回答は <u>十分な内容理解に基づいており、詳細に説明できる</u> 。	・明瞭な話し方であり声量は大きく 楽に聞き取れる。 ・すべての質問に回答できるが、詳細にというわけではない。	・話し方が不明瞭で不正確な部分があり、声が小さい。 ・内容を十分に理解しておらず、表面的な発表および質問への回答である。	・声が小さく、まったく理解できない。 ・内容が理解できず、質問にも正確に答えられない。
⑦ 研究体制	研究体制が整っており、研究が能率的に行われている。	グループ内で協力して研究する体制が整っており、ひとりひとりの役割が明確になっている。	グループで研究する体制が整ってはいるが、一部の生徒に労力が集中している。	グループで協力して研究する体制が整っていない。
・自作した評価項目				

## 6. 研究の記録

### 1 テーマ報告会まで

日付	活動内容	結果・分かったこと	次の時間にやること

日付	活動内容	結果・分かったこと	次の時間にやること

2 中間報告会まで (夏休み期間の活動も含む)

日付	活動内容	結果・分かったこと	次の時間にやること

日付	活動内容	結果・分かったこと	次の時間にやること

3 プレ発表会まで

日付	活動内容	結果・分かったこと	次の時間にやること

4 石川県 SSH・NSH 生徒課題研究発表会まで

日付	活動内容	結果・分かったこと	次の時間にやること

## 7. 振り返りシートについて

探究には「失敗」がつきものですが、失敗は決してネガティブなものではありません。人類の過去の研究成果には失敗から生まれたものが多くあります。小松高校では、皆さんが粘り強く探究し続けるために、「失敗を評価する」体制づくりに取り組んできました。この冊子にある「振り返りシート」を活用し、皆さんの失敗とそれにどう向き合ったのかを記録してください。このような定期的な振り返りが、皆さんの探究をより良いものに導くことでしょう。

### ○活動の振り返り

観点	中間報告会（9月）	最終発表会（1月）
探究 の プロ セス	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 計画の進捗状況：計画通りに進んでいるか、変更点はあったか</li> <li>* 課題：探究活動を進める上で困難に感じていることは何か、どのように解決するか</li> </ul> <p>(記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 探究活動全体の流れ：計画、情報収集、分析・考察、結論の導出は適切だったか</li> <li>* 成果物：成果物の完成度、質はどうか</li> <li>* 反省点：探究活動を通して改善すべき点は何か*</li> <li>質疑応答：質疑応答を通して得られた学びや改善点は何か</li> </ul> <p>(記入)</p>
学び と 成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 新たな知識・スキル：探究活動を通して新たに得られた知識やスキルは何か</li> <li>* 興味・関心の変化：探究活動を通して、興味・関心に変化はあったか</li> </ul> <p>(記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 他者からの評価：発表を通して、他者からどのような評価を得られたか</li> <li>* 自己評価との比較：他者からの評価と自己評価にギャップはあったか</li> <li>* 今後の探究活動への意欲：今回の探究活動を通して、今後の探究活動への意欲は高まったか</li> </ul> <p>(記入)</p>
協働 的な 学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 役割分担：チーム内での役割分担は適切だったか</li> <li>* コミュニケーション：チーム内のコミュニケーションは十分だったか</li> <li>* 課題：チームで活動する上で困難に感じていることは何か、どのように解決するか</li> </ul> <p>(記入)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* チームとしての成果：チームとしての成果をどのように評価するか</li> <li>* チームワークの反省点：チームで活動する上で改善すべき点は何か</li> <li>* チームでの学び：チームで活動することを通して、どのような学びがあったか</li> </ul> <p>(記入)</p>

## 8. 成績評価

普段の取り組み状況および提出されたレポート、発表会に対して、以下の各観点について評価します。

### <担当の先生が評価するルーブリック>

	A	B+	B-	C
1) 研究活動の取り組み 【思考・判断・表現】	<input type="checkbox"/> 日々の研究活動や発表会の記録・反省の内容が具体的かつ建設的で、研究活動の進展につながっている。	<input type="checkbox"/> 日々の研究活動や発表会の記録・反省の内容が具体的で、研究内容の課題を見出せている。	<input type="checkbox"/> 日々の研究活動や発表会の記録・反省の内容が具体的で、自身の課題を見出せている。	<input type="checkbox"/> 日々の研究活動や発表会の記録・反省の内容が抽象的である。
2) 研究活動の貢献度 【知識・技能】	<input type="checkbox"/> 自分が進めてきた探究の手法や考え方を振り返り、発展的な新たな課題を見出したり、その解決にむけたアプローチを考案したりしている。	<input type="checkbox"/> 情報最も適切な分類法や統計的手法を活用して整理統合し、分析することができる。	<input type="checkbox"/> 結果から事実に基づく論理的思考ができる。	<input type="checkbox"/> 結果について考察しているが、多面的でない。
3) ポスター発表 【思考・判断・表現】	<input type="checkbox"/> 文章やプレゼンテーションが論理的に構成されており、明確かつ説得力のある表現ができる。適切な資料・データの活用もされている。	<input type="checkbox"/> 文章やプレゼンテーションは概ね分かりやすく、論理的な流れもあるが、一部説明が不足している箇所がある。	<input type="checkbox"/> 文章やプレゼンテーションの構成が不十分であり、説明がわかりにくい部分がある。データの活用が限定的である。	<input type="checkbox"/> 文章やプレゼンテーションの構成が不明瞭で、伝えたい内容が適切に表現されていない。資料・データの活用もほとんどない。
4) 活動報告書 【知識・技能】	<input type="checkbox"/> 構成が明確であり、論理的な流れに沿って展開されている。論の一貫性があり、読み手にとって分かりやすい。	<input type="checkbox"/> 構成が概ね整っており、論理的な流れもあるが、一部説明が不足しているか、論理の飛躍が見られる。	<input type="checkbox"/> 構成が不明確な部分があり、論理つながりが弱い。主張が分かりにくく、まとまりに欠ける箇所がある。	<input type="checkbox"/> 構成が整理されておらず、論理的な一貫性がない。文章のつながりが不明瞭で、論旨が伝わりにくい。
5) 粘り強さ 【主体】	<input type="checkbox"/> 困難に直面しても、試行錯誤しながら粘り強く取り組むことができる。失敗から学び、改善を重ねながら最後までやり遂げる。	<input type="checkbox"/> 困難に直面した際、努力して解決しようとする姿勢があるが、試行錯誤が不足していることがある。	<input type="checkbox"/> 困難があると諦めがちだが、周囲のサポートがあれば取り組み続けることができる。	<input type="checkbox"/> 困難があるとすぐに諦めてしまい、粘り強く取り組む姿勢が見られない。
6) 規律性 【主体】		<input type="checkbox"/> 期日を守って、提出できている。	<input type="checkbox"/> 期日に遅れたが、提出できている。	<input type="checkbox"/> 提出できていない。

## 参考文献リスト：本

例	著者・編者・監修者	小松次郎	(キーワード) 天守台
	書名	隠れた日本の名城 100選	
	出版社	丸内出版	
	発行年	2018年	

本 1	著者・編者・監修者		(キーワード)
	書名		
	出版社		
	発行年		

本 2	著者・編者・監修者		(キーワード)
	書名		
	出版社		
	発行年		

本 3	著者・編者・監修者		(キーワード)
	書名		
	出版社		
	発行年		

本 4	著者・編者・監修者		(キーワード)
	書名		
	出版社		
	発行年		

本 5	著者・編者・監修者		(キーワード)
	書名		
	出版社		
	発行年		

本 6	著者・編者・監修者		(キーワード)
	書名		
	出版社		
	発行年		

## 参考文献リスト：インターネット

### ウェブサイト信頼性の判断

- ①開設者・運営組織が信頼できるか。開設者の情報が開示されているか。
- ②引用や参考文献を示しているか。(情報源が明記されていない情報は信頼性が薄い)
- ③望ましいサイト 「官公庁」「大学」「研究機関」

例	ホームページ開設者	文部科学省	(キーワード) GIGAスクール 構想
	トップページタイトル	文部科学省ホームページ	
	アクセスしたページの タイトル	教育の情報化の推進	
	URL	<a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/index.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/index.htm</a>	
	アクセス日	2018年3月13日	

イ 1	ホームページ開設者		(キーワード)
	トップページタイトル		
	アクセスしたページの タイトル		
	URL		
	アクセス日		

イ 2	ホームページ開設者		(キーワード)
	トップページタイトル		
	アクセスしたページの タイトル		
	URL		
	アクセス日		

イ 3	ホームページ開設者		(キーワード)
	トップページタイトル		
	アクセスしたページの タイトル		
	URL		
	アクセス日		

参考文献リスト：( )

			(キーワード)

			(キーワード)

			(キーワード)

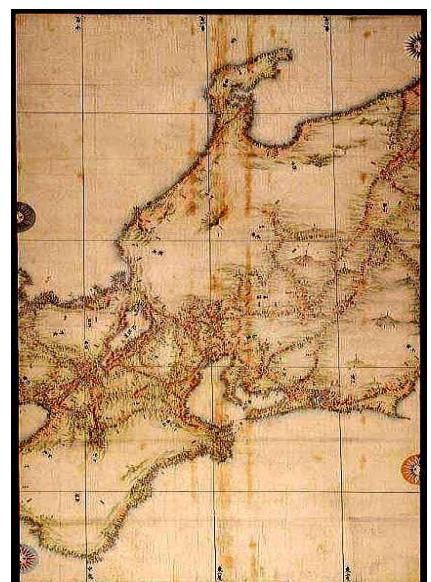
			(キーワード)

			(キーワード)

			(キーワード)

			(キーワード)

伊能忠敬の作成した日本地図



知の領域を広げよう！

### ★使えるお役立ちサイト★

- ・伝わるデザイン 高校生のための研究発表の手引き <https://student.tsutawarudesign.com/>
- ・日本最大の図書館検索蔵書サイト カーリル <https://calil.jp/>
- ・高校生向けの統計サイト なるほど統計学園高等部 <https://www.stat.go.jp/koukou/>